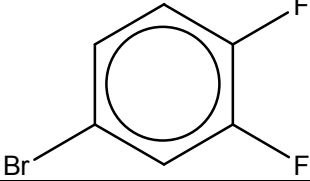


既存化学物質審査シート(生態影響)

(平成20年7月25日開催)

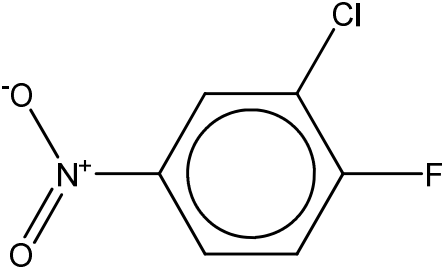
官報公示 整理番号	CAS No.	物質名称	判定結果		頁
			人健康影響	生態影響	
3-4148	348-61-8	1-ブロモ-3, 4-ジフルオロベンゼン	二監相当 【告示済み】	三監相当	1
3-4071	350-30-1	3-クロロ-4-フルオロニトロベンゼン	二監相当 【告示済み】	三監相当	3
4-1686	620-93-9	ジ-n-トリルアミン	二監相当 【告示済み】	三監相当	5
4-1656	2222-33-5	5H-ジベンゾ[a, d]シクロヘプテン-5-オン	二監相当 【告示済み】	三監相当	7
3-4173	2479-46-1	4, 4'-(m-フェニレンジオキシ)ジアニリン	二監相当 【告示済み】	三監相当	9
4-1709	6807-17-6	4, 4'-(1, 3-ジメチルブチリデン)ジフェノール	二監相当 【告示済み】	三監相当	11
5-6262	22720-75-8	2-アセチルベンゾ[b]チオフェン	二監相当 【告示済み】	三監相当	13
4-329	90-30-2	1-(N-フェニルアミノ)-ナフタレン		三監相当	15
4-575	91-17-8	ビスクロ[4, 4, 0]デカン		三監相当	17
5-724	504-24-5	4-アミノピリジン		三監相当	19
3-907	615-58-7	2, 4-ジブロモフェノール		三監相当	21
3-290	634-93-5	2, 4, 6-トリクロロアニリン		三監相当	23
4-1819	827-52-1	シクロヘキシルベンゼン	二監相当 【告示済み】	三監相当	25
5-137	948-65-2	2-フェニルインドール		三監相当	27

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-4148	CAS No.	348-61-8
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成7年5月23日告示済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-ブロモ-3,4-ジフルオロベンゼン 		
外観	薄い黄色透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当【新規化学物質として審議済み】 ※試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験 【13年】	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD TG 201 (1984) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 5.0、7.3、11、16、23、34、50 mg/L 実測濃度 2.1、3.4、5.1、7.4、10、15、22 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hErC50（実測値に基づく）=14 mg/L 48hNOECr（実測値に基づく）=5.1 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD TG 202 (1984) 試験方法：半止水式、24時間後に換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 3.0、4.6、6.9、11、16 mg/L 実測濃度 2.1、3.3、4.8、7.7、12 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=6.3 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD TG 211 (1998) 試験方法：半止水式、毎日換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.20、0.50、1.3、3.2、8.0 mg/L 実測濃度 0.16、0.37、0.91、2.0、5.0 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 21dNOEC（実測値に基づく）=0.91 mg/L		

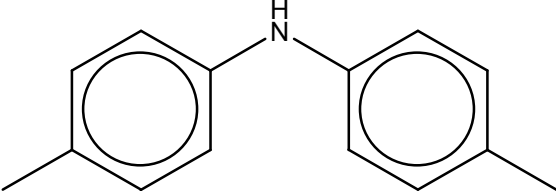
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD TG 203 (1992) 試験方法：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 5.0、8.9、16、28、50 mg/L 実測濃度 2.6、4.9、9.7、19、35 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 7.8 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 4.9mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (72hr 2/9、96hr 5/7) 遊泳不能 (96hr 1/7)</p>
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=7.8mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度：300mg/L (試験機関測定値 (純水、20℃))

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-4071	CAS No.	350-30-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成元年3月7日告示済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：3-クロロ-4-フルオロニトロベンゼン 		
外観	微黄色結晶		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当【新規化学物質として審議済み】 ※試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験 【13年】	生物種：Pseudokirchneriella subcapitata 試験法：OECD TG 201 (1984) 培養方式：振とう培養 純度：99.5% 試験濃度：設定濃度 0.10、0.15、0.22、0.32、0.46、0.68、1.0 mg/L 実測濃度 0.072、0.10、0.15、0.21、0.31、0.48、0.71 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hErC50 (実測値に基づく) = 0.60 mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) = 0.31 mg/L ※実測濃度 0.48mg/L と 0.71mg/L の区で細胞の膨潤が見られた。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ Daphnia magna 試験法：OECD TG 202 (1984) 試験方法：止水式 純度：99.5% 試験濃度：設定濃度 5.0、7.0、10、14、20 mg/L 実測濃度 4.4、6.3、8.8、12、18 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEC50 (設定値に基づく) = 8.2 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種：オオミジンコ Daphnia magna 試験法：OECD TG 211 (1998) 試験方法：半止水式、毎日換水 純度：99.5% 試験濃度：設定濃度 0.080、0.25、0.80、2.5、8.0 mg/L 実測濃度 0.072、0.23、0.71、2.2、7.2 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 21dNOEC (設定値に基づく) = 0.25 mg/L		

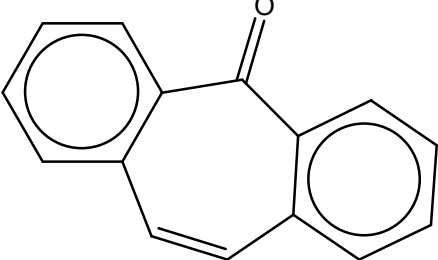
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD TG 203 (1992) 試験方法：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.5% 試験濃度：設定濃度 0.50、0.87、1.5、2.6、4.5 mg/L 実測濃度 0.45、0.74、1.3、2.3、4.0 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) =2.0 mg/L
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hErC50=0.60mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=2.0mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度：380mg/L (試験機関測定値 (純水、20℃))

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-1686	CAS No.	620-93-9
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成4年11月19日告示済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ジ-p-トリルアミン 		
外観	微橙黄色結晶性粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当【新規化学物質として審議済み】 ※試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験 【13年】	生物種：Pseudokirchneriella subcapitata 試験法：OECD TG 201 (1984) 培養方式：振とう培養 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.030、0.048、0.077、0.12、0.20、0.31、0.50 mg/L 実測濃度 ー、0.019、0.035、0.052、0.099、0.18、0.34 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 50 μL/L 72hErC50 (実測値に基づく) =0.14 mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) =0.019 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ Daphnia magna 試験法：OECD TG 202 (1984) 試験方法：止水式 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.094、0.17、0.31、0.50、0.93 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 48hEC50 (設定値に基づく) =0.40 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種：オオミジンコ Daphnia magna 試験法：OECD TG 211 (1998) 試験方法：半止水式、毎日換水 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.010、0.025、0.063、0.16、0.40 mg/L 実測濃度 0.009、0.024、0.062、0.14、0.37 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 21dNOEC (設定値に基づく) =0.025 mg/L		

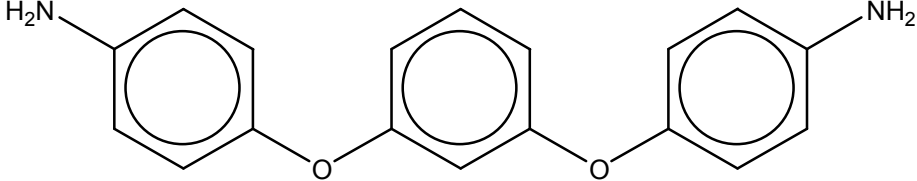
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD TG 203 (1992) 試験方法：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.30、0.41、0.55、0.74、1.0 mg/L 実測濃度 0.21、0.32、0.43、0.61、0.79 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μ L/L 96hLC50 (実測値に基づく) =0.43 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.32mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (96hr 3/7)</p>
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 72hErC50=0.14mg/L、72hNOECr=0.019mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.40mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC =0.025mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.43mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>対水溶解度：3 mg/L (試験機関測定値 (純水、20℃))</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-1656	CAS No.	2222-33-5
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成2年3月26日告示済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：5H-ジベンゾ [a, d] シクロヘプテン-5-オン 		
外観	淡黄色粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当【新規化学物質として審議済み】 ※試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験 【12年】	生物種：Pseudokirchneriella subcapitata 試験法：OECD TG 201 (1984) 培養方式：振とう培養 純度：97% 試験濃度：設定濃度 0.022、0.046、0.10、0.22、0.46 mg/L 実測濃度 -、-、0.047、0.17、0.38 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF：HCO-40 1：9 (14 mg/L) 72hErC50 (実測値に基づく) =0.14 mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) =0.011 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD TG 202 (1984) 試験方法：止水式 純度：97% 試験濃度：設定濃度 0.32、0.56、1.0、1.8、3.2 mg/L 実測濃度 0.34、0.56、0.96、1.6、2.7 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF：HCO-40 1：9 (96 mg/L) 48hEC50 (実測値に基づく) =1.9 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD TG 211 (1998) 試験方法：半止水式、48時間毎に換水 純度：97% 試験濃度：設定濃度 0.046、0.10、0.22、0.46、1.0mg/L 実測濃度 0.048、0.099、0.23、0.47、0.99mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF：HCO-40 1：9 (30 mg/L) 21dNOEC (設定値に基づく) =0.22 mg/L		

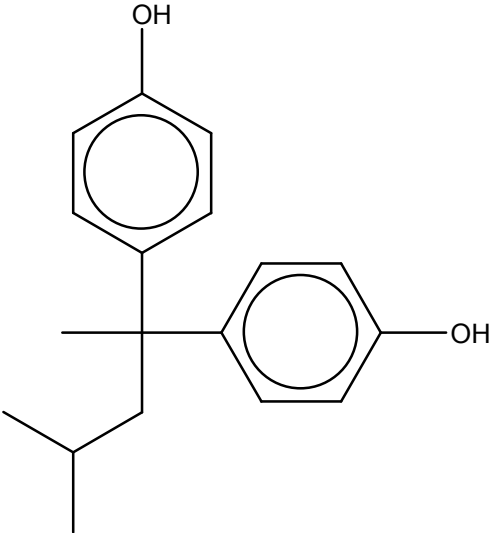
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD TG 203 (1992) 試験方法：半止水式、48 時間後に換水 純度：97% 試験濃度：設定濃度 3.2 mg/L (分散可能最高濃度※) 実測濃度 2.5 mg/L (幾何平均値、分散画分) 助剤：DMF：HCO-40 1：9 (100 mg/L) 96hLC50 (実測値に基づく) >2.5 mg/L (溶解限度で影響が認められなかった。)</p> <p>※試験機関測定値</p>
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hErC50=0.14mg/L、72hNOECr=0.011mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度：不明 (報告書記載なし)

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-4173	CAS No.	2479-46-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成8年12月17日告示済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4, 4' - (m-フェニレンジオキシ) ジアニリン 		
外観	明るい灰黄色結晶性粉末および小塊		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当【新規化学物質として審議済み】 ※試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験 【13年】	生物種：Pseudokirchneriella subcapitata 試験法：OECD TG 201 (1984) 培養方式：振とう培養 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.030、0.065、0.14、0.30、0.65、1.4、3.0 mg/L 実測濃度 0.0087、0.028、0.072、0.17、0.40、0.85、2.2 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 72hErC50 (実測値に基づく) >2.2 mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) =0.40 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ Daphnia magna 試験法：OECD TG 202 (1984) 試験方法：止水式 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.90、1.2、1.6、2.2、3.0 mg/L 実測濃度 0.87、1.2、1.6、2.1、2.9 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 48hEC50 (設定値に基づく) =2.9 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種：オオミジンコ Daphnia magna 試験法：OECD TG 211 (1998) 試験方法：半止水式、毎日換水 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.0030、0.0095、0.030、0.095、0.30 mg/L 実測濃度 0.0026、0.0091、0.029、0.089、0.34 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.029 mg/L		

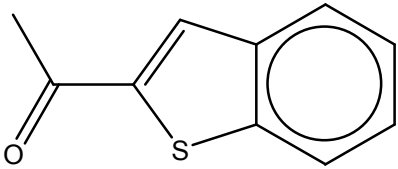
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD TG 203 (1992) 試験方法：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.90、1.2、1.6、2.2、3.0 mg/L 実測濃度 0.88、1.2、1.5、2.2、3.0 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μ L/L 96hLC50 (設定値に基づく) =1.9 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.2mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (24h 8/10、48h 5/10、72h 5/10、96hr 5/10) 1.6mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (24h 10/10、48h 5/10、72h 8/10、96h 6/10) 遊泳不能 (72h 2/10、96h 4/10)</p>
生態影響 判定根拠	<p>構造中に芳香族アミンを有しかつミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50 =2.9mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.029mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=1.9mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>対水溶解度：3 mg/L (試験機関測定値、純水、20℃)</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-1709	CAS No.	6807-17-6
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成8年12月17日告示済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4, 4' - (1, 3 - ジメチルブチリデン) ジフェノール 		
外観	白色微細結晶および結晶性粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当【新規化学物質として審議済み】 ※試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験 【12年】	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD TG 201 (1984) 培養方式： 振とう培養 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 17 mg/L (分散可能最高濃度※) 実測濃度 17 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-40 100 mg/L 72hErC50 (設定値に基づく) >17 mg/L 72hNOECr (設定値に基づく) >17 mg/L (溶解限度で影響が認められなかった) ※試験機関測定値		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD TG 202 (1984) 試験方法： 止水式 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 1.6、2.8、5.1、9.0、16 mg/L 実測濃度 1.6、2.7、4.9、8.7、15 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-40 96mg/L 48hEC50 (設定値に基づく) =13 mg/L		

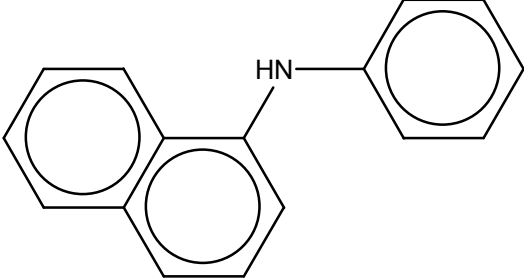
ミジンコ 繁殖阻害 試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD TG 211 (1998) 試験方法：半止水式、48 時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.50、1.1、2.3、5.1、11 mg/L 実測濃度 0.47、1.1、2.2、5.0、11 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF：HCO-60 1：5 (99 mg/L) 21dNOEC (設定値に基づく) =0.50 mg/L</p>
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：メダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD TG 203 (1992) 試験方法：半止水式、24 時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.95、1.8、3.2、5.5、10 mg/L (幾何平均値) 助剤：THF：HCO-40 1：4 (100 mg/L) 96hLC50 (設定値に基づく) =2.7 mg/L</p>
生態影響 判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50=2.7mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>対水溶解度：不明 (報告書に記載なし)</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-6262	CAS No.	22720-75-8
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成8年12月17日告示済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2-アセチルベンゾ [b] チオフェン 		
外観	赤みの薄い黄色粉末および小塊		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当【新規化学物質として審議済み】 ※試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験 【13年】	生物種：Pseudokirchneriella subcapitata 試験法：OECD TG 201 (1984) 培養方式：振とう培養 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.20、0.38、0.74、1.4、2.7、5.2、10 mg/L 実測濃度 0.18、0.33、0.64、1.2、2.3、4.4、8.5 mg/L (初期実測濃度) 助剤：DMF 100 μL/L 72hErC50 (実測値に基づく) = 5.4 mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) = 0.64 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ Daphnia magna 試験法：OECD TG 202 (1984) 試験方法：止水式 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 4.0、5.6、7.7、11、15 mg/L 実測濃度 3.5、4.9、6.7、9.4、13 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEC50 (設定値に基づく) = 11 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種：オオミジンコ Daphnia magna 試験法：OECD TG 211 (1998) 試験方法：半止水式、毎日換水 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.12、0.38、1.2、3.8、12 mg/L 実測濃度 0.10、0.32、1.0、3.2、10 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 1.0 mg/L		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD TG 203 (1992) 試験方法：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 7.0、9.6、13、18、25 mg/L 実測濃度 6.0、8.6、12、16、23 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 μ L/L 96hLC50 (設定値に基づく) =10 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 7.0mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (72h 2/10) 9.6mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (24h 10/10、48h 10/10、72h 7/10、96h 4/4) 遊泳不能 (72h 3/10)</p> <p>①96hLC50 は正確には 10.1 mg/L である。</p>
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=10mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度：46mg/L (試験機関測定値 (純水、20°C))

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-329	CAS No.	90-30-2
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-(N-フェニルアミノ)-ナフタレン 		
用途	添加剤（油用）※化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成16年実績）		
外観	褐色個体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG（2003） 培養方式：振とう培養 純度：99.7% 試験濃度：設定濃度 1.0、3.2、10、32、100%（100 mg/L で調製した水溶性画分(WSF)） 実測濃度 0.0022、0.0036、0.0064、0.022、0.15 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 72hErC50（実測値に基づく）=0.034 mg/L 72hNOECr（実測値に基づく）=0.0036 mg/L ※0.022、0.15mg/L 区において細胞膨張、0.15mg/L 区において細胞凝集が見られた。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（密閉系）、24 時間後に換水 純度：99.7% 試験濃度：設定濃度 9.9、15、22、33、50%（100 mg/L で調製した水溶性画分(WSF)） 実測濃度 0.12、0.18、0.27、0.40、0.60 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=0.26 mg/L		

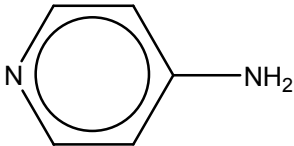
魚類急性毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：流水式 純度：99.7% 試験濃度：設定濃度 0.32、0.47、0.71、1.1、1.6 mg/L 実測濃度 0.24、0.35、0.57、0.87、1.2 mg/L (算術平均値) 助剤：DMF 0.10 mL/L 96hLC50 (実測値に基づく) =0.70 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.35 mg/L 群：完全平衡喪失 (96hr 2/7) 活動度の低下 (96h 2/7) 0.57 mg/L 群：表層集中 (72h1/7) 完全平衡喪失 (48hr 3/7、72hr 3/7、96hr 4/6) 部分的平衡喪失 (48hr 1/7、72hr 2/7、96hr 2/6) 活動度の低下 (48hr 4/7、72hr 7/7、96hr 6/6)</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 72hErC50=0.034mg/L、72hNOECr=0.0036mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.26mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.70mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S55	0/36	—	0.025~0.1(μ g/L)
		S56	0/126	—	0.1(μ g/L)
	底質	S55	9/36	0.0044~0.04	0.0013~0.02(μ g/g-dry)
		S56	0/126	—	0.005(μ g/g-dry)
	魚類	S56	0/123	—	0.005(μ g/g-wet)
備考	<p>※1 S56、57 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 対水溶解度：60mg/L (文献値、25℃)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-575	CAS No.	91-17-8
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ビスクロ [4, 4, 0] デカン 		
外観	無色液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 (密閉系) 純度：99.9% (trans 34.7%、cis65.2%) 試験濃度：設定濃度 12、20、35、59、100% (10 mg/L で調製した水性画分(WAF)) 実測濃度 0.0078、0.0086、0.015、0.026、0.051 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hErC50 (実測値に基づく) >0.051 mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) =0.015 mg/L ※全濃度区で細胞凝集が見られた。 ※培地への溶解度 (23±1℃) : 0.96 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式 (密閉系)、24 時間後に換水 純度：99.9% (trans 34.7%、cis65.2%) 試験濃度：設定濃度 9.5、17、31、56、100% (10 mg/L で調製した水性画分(WAF)) 実測濃度 0.051、0.089、0.16、0.33、0.75 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) =0.23 mg/L ※試験用水への溶解度 (20±1℃) : 0.81 mg/L		
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式 (密閉系)、24 時間毎に換水 純度：99.9% (trans 34.7%、cis65.2%) 試験濃度：設定濃度 9.5、17、31、56、100% (10 mg/L で調製した水性画分(WAF)) 実測濃度 0.034、0.059、0.12、0.19、0.47 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) =0.37 mg/L ※試験用水への溶解度 (24±1℃) : 0.85 mg/L		

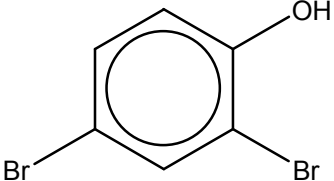
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hNOECr=0.015mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.23mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.37mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S59	0/18	—	0.02~0.1(μ g/L)
	底質	S59	0/18	—	0.005~0.022(μ g/g-dry)
環境調査 ※2	魚類	—	—	—	—
	水質	S59	0/18	—	0.01~0.07(μ g/L)
	底質	S59	4/18	0.006~0.181	0.002~0.016(μ g/g-dry)
備考	魚類	—	—	—	—
	※1 S60 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) cis 体の測定結果 ※2 S60 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) trans 体の測定結果 蒸気圧: 1 mmHg (23°C)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-724	CAS No.	504-24-5		
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当				
名称 構造式等	名称：4-アミノピリジン 				
外観	僅かに薄い赤褐色微細結晶				
分解性	難分解性				
蓄積性	高濃縮性でない				
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2003) 培養方式：振とう培養 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 1.2、2.6、5.6、12、27、60 mg/L 実測濃度 1.2、2.6、5.6、12、27、60 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hErC50 (設定値に基づく) = 30 mg/L 72hNOECr (設定値に基づく) = 12 mg/L				
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 1.9、3.8、7.5、15、30、60 mg/L 実測濃度 2.0、—、—、—、—、62 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEC50 (設定値に基づく) = 15 mg/L				
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、48時間後に換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.93、1.3、1.8、2.6、3.6、5.0 mg/L 実測濃度 0.99、—、—、—、—、5.2 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) = 3.4 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.8 mg/L 群：出血 (24hr 1/10) 2.6 mg/L 群：出血 (24hr 1/10) 部分的平衡喪失 (24h1/10)				
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=3.4mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※ 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S58	0/30	—	0.1~3(μ g/L)
	底質	S58	0/30	—	0.005~0.12(μ g/g-dry)

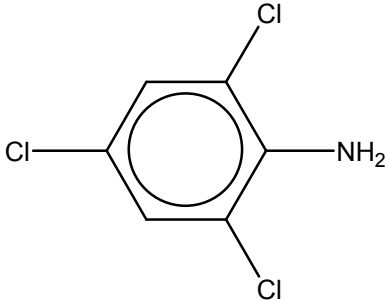
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S59版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 対水溶解度： 易溶 (化学大辞典) pKa : 9.17 (20℃)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-907	CAS No.	615-58-7
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 4-ジブロモフェノール 		
外観	無色針状晶		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2003) 培養方式：振とう培養 純度：98.4% 試験濃度：設定濃度 0.10、0.32、1.0、3.2、10 mg/L 実測濃度 0.031、0.10、0.35、1.0、4.0 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hErC50 (実測値に基づく) = 1.1 mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) = 0.10 mg/L ※1.0、4.0mg/L 群において細胞膨張、1.0、0.35mg/L 群において細胞凝集が見られた。 ※72hNOECr は正確には 0.101 mg/L である。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：98.4% 試験濃度：設定濃度 0.38、0.69、1.2、2.2、4.0 mg/L 実測濃度 0.36、0.66、1.2、2.4、4.3 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEC50 (設定値に基づく) = 2.1 mg/L		

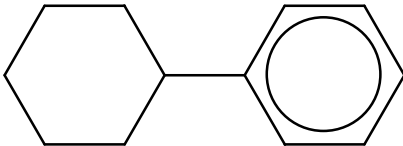
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：98.4% 試験濃度：設定濃度 0.91、1.8、2.4、3.1、4.0、5.2 mg/L 実測濃度 0.87、1.8、2.2、2.9、3.8、5.0 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) =3.6 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。</p> <p>1.8 mg/L 群：部分平衡喪失 (24h1/8) 活動度の低下 (24hr 1/8)</p> <p>2.4 mg/L 群：表層集中 (24hr 4/8、48h1/8、72hr 1/8、96hr 2/8) 完全平衡喪失 (24hr 1/8、48h1/8、72hr 1/8、96hr 1/8) 部分平衡喪失 (24hr 2/8、48h1/8、72hr 1/8) 活動度の低下 (24hr 4/8、48h2/8、72hr 2/8、96hr 2/8)</p> <p>3.1 mg/L 群：表層集中 (24hr 6/8、48h6/8、72hr 7/8、96hr 6/8) 完全平衡喪失 (24hr 5/8、48h6/8、72hr 6/8、96hr 5/8) 部分平衡喪失 (24hr 3/8、48h2/8、72hr 2/8、96hr 2/8) 活動度の低下 (24hr 8/8、48h8/8、72hr 8/8、96hr 7/8) 嗜眠状態 (96h1/8)</p>
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hErC50=1.1mg/L、72hNOECr=0.10mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=3.6mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度： 1.9×10^3 mg/L (15°C) (SRC PhysProp Database)、易溶 (化学大辞典)

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-290	CAS No.	634-93-5
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 4, 6-トリクロロアニリン 		
外観	針状晶		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2003) 培養方式：振とう培養 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.30、0.95、3.0、9.5、30% (100 mg/L で調製した水溶性画分(WSF)) 実測濃度 0.069、0.23、0.71、2.5、7.5 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hErC50 (実測値に基づく) = 3.7 mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) = 0.069 mg/L ※7.5mg/L 群において細胞凝集が見られた。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.16、0.34、0.75、1.7、3.6、8.0 mg/L 実測濃度 0.14、0.31、0.69、1.5、3.3、6.8 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) = 4.3 mg/L		

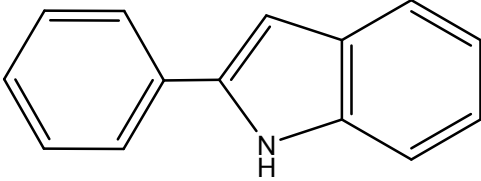
魚類急性毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.97、2.9、4.1、5.7、8.0 mg/L 実測濃度 0.88、2.7、3.8、5.4、7.5 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=5.3 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.7 mg/L 群：表層集中（24hr 3/10、48h5/10、72hr 7/10、96hr 7/10） 完全平衡喪失（48h3/10、72hr 3/10、96hr 3/10） 部分平衡喪失（72hr 1/10、96hr 1/10） 活動度の低下（48h3/10、72hr 4/10、96hr 4/10） 3.8 mg/L 群：表層集中（24hr 6/10、48h6/10、72hr 4/6、96hr 6/6） 完全平衡喪失（24h5/10、48h5/10、72hr 3/6、96hr 5/6） 部分平衡喪失（24hr 2/10、48hr 2/10、96hr 1/6） 活動度の低下（24h7/10、48h7/10、72hr 3/6、96hr 6/6）</p>				
生態影響判定根拠	<p>構造中に芳香族アミンを有しかつミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50 = 4.3mg/L、藻類生長阻害試験において 72hNOECr=0.069mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=5.3mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S56	0/15	—	0.001~0.005(μ g/L)
	底質	S56	0/15	—	0.0002~0.001(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S57 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） 対水溶解度： 40 mg/L (25℃) SRC PhysProp Database</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-1819	CAS No.	827-52-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成14年2月14日告示済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：シクロヘキシルベンゼン 		
外観	無色透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当【新規化学物質として審議済み】 ※試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：99.2% 試験濃度：設定濃度 2.6、6.4、16、40、100%（100 mg/L で調製した水性画分(WAF)） 実測濃度 0.052、0.11、0.32、0.73、2.1 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 72hErC50（実測値に基づく）=0.69 mg/L 72hNOECr（実測値に基づく）=0.11 mg/L ※培地への溶解度（23±1℃）：4.5 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式（密閉系） 純度：99.2% 試験濃度：設定濃度 2.9、5.1、9.3、17、30%（100 mg/L で調製した水性画分(WAF)） 実測濃度 0.087、0.16、0.29、0.53、0.94 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=0.37 mg/L ※試験用水への溶解度（20±1℃）：3.8 mg/L		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（密閉系）、24 時間毎に換水 純度：99.2% 試験濃度：設定濃度 9.5、17、31、56、100%（100 mg/L で調製した水性画分(WAF)） 実測濃度 0.25、0.46、0.83、1.5、3.0 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=1.2 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.83 mg/L 群：活動度の低下（96hr 1/8）</p> <p>※試験用水への溶解度（24±1℃）：3.9 mg/L</p>
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 72hErC50=0.69mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.37mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=1.2mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-137	CAS No.	948-65-2
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2-フェニルインドール 		
外観	極薄い黄色結晶性粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 1.0、3.2、10、32、100% (100 mg/L で調製した水溶性画分(WSF)) 実測濃度 0.0048、0.022、0.089、0.34、1.1 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hErC50 (実測値に基づく) =0.20 mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) =0.022 mg/L ※培地への溶解度 (23±1°C) : 1.2 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 6.1、12、22、42、80% (100 mg/L で調製した水溶性画分(WSF)) 実測濃度 0.050、0.10、0.19、0.37、0.71 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) =0.30 mg/L ※試験用水への溶解度 (20±1°C) : 0.94 mg/L		
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 7.6、12、20、31、50% (100 mg/L で調製した水溶性画分(WSF)) 実測濃度 0.080、0.13、0.21、0.35、0.58 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) =0.27 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.21 mg/L 群：体色明化 (96hr 6/7) ※試験用水への溶解度 (24±1°C) : 1.2 mg/L		

生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hErC50=0.20mg/L、72hNOECr=0.022mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.30mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.27mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度：不溶（化学大辞典）